

森と木のクリエイター科

入学金・授業料

	入学手続き時	前期	後期	計
入学金	282,000円	—	—	282,000円
1年時授業料	—	267,900円	267,900円	535,800円
2年時授業料	—	267,900円	267,900円	535,800円
合 計	282,000円	535,800円	535,800円	1,353,600円

奨学金制度

岐阜県立森林文化アカデミー 特別給費生制度

支 給 額 年額 560,000円
支 給 期 間 1年間(1年時または2年時)
対 象 者 1学年2名ずつ(著しく優秀と認められる者)

美谷添奨学金

(H21~H29)
支 給 額 年額 105,000円
支 給 期 間 1年間(1年時または2年時)
対 象 者 1学年1名ずつ(著しく優秀と認められる者)

日本学生支援機構

●第1種奨学金(無利子)

貸 与 額 自宅生 月額 45,000円
自宅外生 月額 51,000円
対 象 者 高校時の成績が3.2以上
例年1名程度の内示あり

●第2種奨学金(有利子)

貸 与 額 下記の貸与額から選択
(月額 3万円、5万円、8万円、10万円等)
貸 与 利 率 上限年利3.0%(在学中は無利子)
対 象 者 例年数名程度の内示あり

給付金制度

緑の青年就業準備給付金

卒業後、林業分野^{※1}へ就業し(就業時年齢45歳未満)、その中核を担うことに強い意志を持っている者に対し、在学期間中、1年間に上限150万円(最大2年間)を準備金として給付する岐阜県の制度です。

※1 林業分野: 森林組合、林業事業体、製材業、木製品製造業のほか、岐阜県の森林・林業の再生に寄与すると認められる事業体等
※ 記載した奨学金制度・給付金制度は平成29(2017)年度の予定であり変更される場合があります。

Access

自動車



公共交通機関



岐阜県立森林文化アカデミー

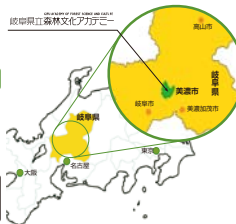
〒501-3714 岐阜県美濃市曾代88番地
TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529
E-mail info@forest.ac.jp

ホームページ Homepage

森林文化アカデミーについて詳しく知る
森林文化アカデミーホームページ
<http://www.forest.ac.jp/>

募集要項の請求

メール、電話等にて森林文化アカデミー事務局まで請求(無料)してください。
または、アカデミーホームページから様式をダウンロードしてください。



岐阜県立 GIFU ACADEMY OF FOREST SCIENCE AND CULTURE 森林文化アカデミー



森と木の クリエイター科

学校案内
GUIDE BOOK



Forestry

林業



Environmental Education

森林環境教育

森と木に関わるスペシャリストを育成する専門学校



Wooden Architecture

木造建築



Woodwork

木工



森と木。地域と人。文化と技術。
すべてをつなぎ、新しい社会をつくる、
はじめての一步は、ここから——

岐阜県立森林文化アカデミーの基本理念は「森林と人との共生」。

すべての人々が森林と親しく関わりを持ち、森林からの恵みを持続的に享受できる社会づくりを目指し、
全国で初めての森林教育・学習機関として、平成13(2001)年、岐阜県美濃市に開学しました。

森が育んだいくつもの伝統文化や技術、そして人の暮らし。

それらを守り、そして発展させ、新しい時代の生き方、働き方を提案しています。

大学卒業程度、社会人経験者を対象とした2年間のプログラム「森と木のクリエイター科」では、
高度な専門知識と、徹底した現場主義で、実践力を養います。
その先にある未来は、あなたが創り上げていくのです。



学内には、33haもの演習林、製材・乾燥施設、木工房、建築
の実大実験場、木造建築の校舎群などが揃います。
森林から木材へ、そして人の暮らしに至るまで、学内で一連
の流れを学ぶことができる、全国でも唯一の学校です。



森と木のクリエイター科

5つの特徴

1 平均年齢は30代前半 22歳から60歳代まで、幅広い世代が集う

森と木のクリエイター科は、大学卒業または社会人経験者が対象。つまり、大学院のような学科です。入学時の平均年齢は31歳。森や木に関わる仕事をしたい、地域社会に貢献したい、と考える人が、スキルを身につけるために全国から集ってきます。前職で身につけたスキルも、新しい生き方や働き方に必ず役立ちます。



2 学生数:教員数=4:1の少人数教育 進路に合わせて組み立てるカリキュラム

学生数は80人。学生と教員の割合は4:1。県立の学校ならではの質実な学びの環境が用意されています。少人数の強みを最大限生かして、活発なディスカッションや実習が行われます。カリキュラムは画一的なものでなく、学生1人1人がめざす進路に合わせてチョイスし、自ら組み立てていきます。大学や社会人経験を経て、目的が明確になっているからこそできる学び方です。

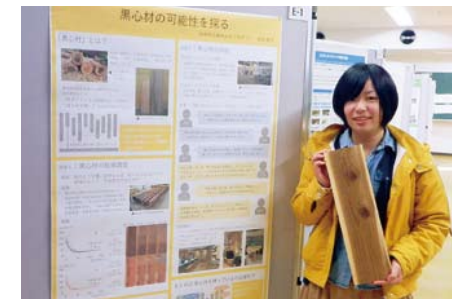


3 森と木をキーワードにつながる 他校にない幅広い分野とネットワーク

林業、森林環境教育、木造建築、木工という異なる4分野が繋がっている学校は、全国でも他にありません。森から木へ、さらに人の暮らしへと続く流れの中で学ぶからこそ、深く理解できることがあります。また、豊富な森林資源を生かした林業が盛んに加えて、飛騨の匠の歴史が示す通り、木材利用の面でも優れた産業があります。地域のさまざまな産業との連携も、岐阜県ならではの強みです。

4 社会の課題解決と自らの夢の実現をめざす 課題研究

クリエイター科の学生は2年次になると、自ら課題を設定して研究に取り組みます。社会人経験がある学生も、大学卒業後すぐアカデミーにやってきた学生も、テーマは「自分が学んできたことを生かして、社会の課題をどう解決できるか」。1年間をかけて実践する課題研究は、卒業後の就職や起業へ向けた助走でもあります。



5 ドイツ・ロッテンブルク大学との交流で 国際的な視野を身につける

平成26(2014)年、森林文化アカデミーはドイツ・バーデンビュルテンベルク(BW)州のロッテンブルク林業大学との間で連携協定を締結しました。林業、森林環境教育、木造建築など、アカデミーと同じような学科構成を持ち、州の森林官(フォレストラー)をはじめとする人材育成を行っている大学です。両校の間では教員同士の交流、研究活動の実施、学生の相互派遣などを行っています。ドイツに学び、グローバルな視野を獲得できます。



林業専攻

Forestry

森林利用分野

森林の多様な機能を高度に発揮させ 維持することのできる 森林経営の専門家を目指す

林業専攻では、多様な森林経営を構築するための考え方や技術を学びます。森林が持つ木材生産機能と様々な公益的機能を発揮させるには、健全な森林経営と適正な施業技術が欠かせません。また、これからの林業界には木材生産・木材流通の多様性が求められます。こうした要請に応えるためには、中・長期的な視野に立った森林施業に立脚した森林経営が必要であり、また、木材需要と木材供給をつなぐコーディネートが重要となります。多角的な視点で森林・林業・木材流通などを学び、これからの時代をリードする専門家を目指します。



特色 1 エビデンスをもって多様な現場に応えられる力を身につける
生態学・生理学を基礎とした技術的合理性、木材需要を考慮した経済的合理性を根拠とする、現場対応型の施業技術を学びます。



特色 2 日本で唯一！ 学内に33haの演習林
学内に33haもの演習林があるのは、日本でもこの学校だけ！知識・技術の理論的な学びを、身近なフィールドで即、実践できます。



特色 3 豊富な施設、機材を使った現物の学びを学内で提供
高性能林業機械、集材機、製材・加工施設から炭窯まで、豊富な施設、機材等を有し、林業の一連の流れを学内で実習できます。



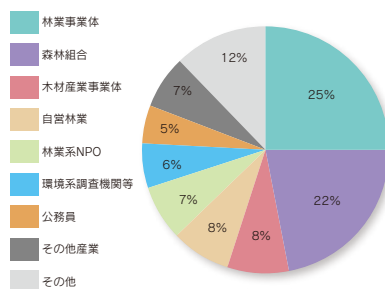
特色 4 地域の行政、林業・林産業関係者が学びを支援
地域の行政や林業・林産業関係者との連携、協力により、プロジェクトや試験研究への参加など、様々な実習フィールドが確保されています。

取得を目指す主な資格

- 森林総合監理士(フォレスタール)
- 森林施業プランナー
- 技術士(森林部門・環境部門)
- 林業技士
- 森林情報士
- 狩猟免許 など

卒業後の進路

半数を超える卒業生が、川上側で森林管理や木材生産など直接的に林業に関わる仕事に就いています。その多くは、林業事業体や森林組合で現場経験を積み、森林施業プランナーなど次のステップを目指します。家業の林業経営や事業体経営を継ぐ人、NPOを立ち上げ地域の森林管理を担う人もいます。また、川中・川下側において、森林・林業の理解者として、木材流通や木材加工の仕事に就いたり、公務員として林業をサポートする仕事に就く人もいます。



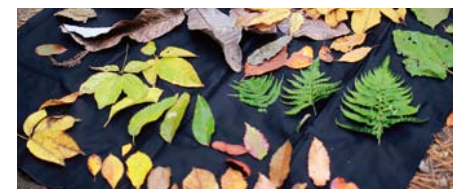
森林環境教育専攻

Environmental Education

森林利用分野

森林空間を活用した人づくりのプロと 森林を総合的に利用できる専門家を育成

“100年先の森づくり”を実現するためには、森林を総合的に捉え、活用し、次世代に「伝えていく」ことが重要です。本専攻では、森のようちえん指導者、自然学校スタッフ、インタープリターなど、森林空間を活用した人づくり(環境教育)のプロや、里山を舞台にしたエコツーリズム、農山村起業、バーマカルチャーを通して持続可能な社会を実践・提案していける人材を育成しています。幅広い視野で森を感じ、理解するための多種多様な体験と、それを伝えるための技術、企画力やセンス、そして事業経営していくためのマネジメント力を実践現場で磨きます。



特色 1 五感・自然科学・文化・アートを通して森を見る
森を最大限活用するには、多面的に森を見ることが大切。自然科学、森林文化、五感、アートなど様々な視点で森を見る目を鍛えます。



特色 2 森と暮らしのつながり・プロセスを体験
生きた木の伐採から始まる木工や建築、薪割りから始まる調理を通して指導者に欠かせない「つながり」や「プロセス」の感覚を養います。



特色 3 毎日が森と人をつなぐ実習現場
森のようちえんからワークショップまで、子どもから大人までを相手に日々、森と人をつなぐ場づくりと伝える技術をナマの現場で学びます。



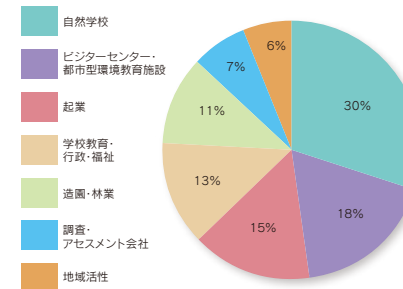
特色 4 森から始まる持続可能な暮らしをデザインする
森から始まる持続可能な暮らしのデザインをバーマカルチャー、コミュニティデザイン、聞き書きの授業を通して学び考えます。

取得を目指す主な資格

- この業界では、資格よりも実力や人間力がより重視されますが、資格取得をきっかけに関連技術や知識を磨くのもひとつの方法かもしれません。参考までに、以下は本コースの関連資格の一例です。
- 保育士
 - 森林インストラクター
 - エコツーリズムガイド
 - ネイチャージョーゲーム指導員
 - キャンプインストラクター
 - プロジェクトワイルド
 - 自然観察指導員
 - 救命救急法 など

卒業後の進路

自然学校や、都市部の環境教育施設のスタッフ、ビジターセンターのインタープリターや造園、環境アセスメントといった多様な職種、現場を舞台に、森林に関わりながら人と自然をつなぐ仕事をしています。活動地域は農山村から都市部まで、テーマは森から暮らしまで、対象とする年齢は幼児から高齢者までと、卒業後に幅広い領域で活動しています。また、個人に働きかける仕事だけでなく、「里山空間」や「地域」をデザインする仕事についている人もいます。



木造建築専攻

木材利用分野

Wooden Architecture

新しいニーズに対応できる建築の設計者、地域をサポートできる構造・温熱・木材などの専門家を目指す

① 木造建築に関する幅広い知識・技術と、自らの軸となる専門性を持つこと、② 将来の目標に向かって、何をどのように学ぶかをデザインできること、③ OJT、専門技術者研修やセミナーなどで、卒業後も継続的に学習し、目標に向かう意欲と行動力を持つこと、が将来の「武器」になります。森林文化アカデミーの木造建築では、林業を意識しつつ、木造建築の要素を一通りの体験を通して概観し、自らの興味と進むべき方向性を見つめます。同時にチームによるプロジェクトの進め方も学びます。さらに、木造建築の専門的な知識、技術を身に着け、軸となる専門性の要素を掘り下げます。



木工専攻

木材利用分野

Woodwork

地域材を生かした商品の企画・制作や、木工教室の運営など、技術で資源に付加価値をつけ、地域を豊かにする

木工専攻では手工具や機械を使い、小物から家具に至るまでの制作全般を学びます。初めて木工を学ぶ人も技術を安全に身につけられるよう、様々な実習が用意されています。しかし技術の習得はあくまで手段。目的は、身近な森林資源により高い付加価値をつけ、新たな人やお金を呼び込み、地域を元気にすることです。それを実社会の現場で磨きます。また、都会に暮らし森と離れてしまった人々に、ふたたび森と関わる楽しさや豊かさを実感してもらう上でも、木工技術は役立ちます。都会で増えている木工教室や木育の活動で指導的な役割を果たせるよう、現場の実習で鍛えます。



特色 1 実践を通して学ぶ「自力建設プロジェクト」

入学してすぐに、学生が自ら設計・施工で小さな建築物をつくります。演習林から伐出した樹木を製材・墨付け・刻みし、1年かけて竣工します。



特色 2 リフォーム時代の必須科目「木造建築病理学」

木造建築・住宅に関する調査手法や、定量的な性能評価、説明力などの改修技術を体系的に学びます。



特色 1 手工具、木工機械を一から習得、基本技術を磨く

手工具でスプーンや箸、木工旋盤でお椀や皿、木工機械で額縁やテーブル。1年次では自分が使うものを作りながら、基本技術を身につけます。



特色 2 地域の木材で商品開発、公共施設や店舗で販売実践

地域材に木工技術でいかに価値を付けられるか、学生1人1人が調査、デザイン、制作を行います。販売して評価を得るのも学びの一つです。



特色 3 社会で求められる実践力「地域実践プロジェクト」

学外の建築実務者と協同行います。住宅の設計・監理や構造試験、木材強度試験など、実際のプロジェクトに参画します。



特色 4 次世代版設計の先取り「木造建築の性能設計」

現状の設計手法はもちろんですが、将来の実務で役立つように構造設計、省エネ設計、耐火設計など木造建築の性能設計の手法を学びます。



特色 3 全国で人気のグリーンウッドワーク、指導技術を学ぶ

身近な森の木を機械を使わずに加工して作品を作ります。本格的に学べるのは全国でここだけ。技術に加え講座運営のノウハウも身につけます。



特色 4 木工や木育の教室を企画・運営し、森と人をつなぐ

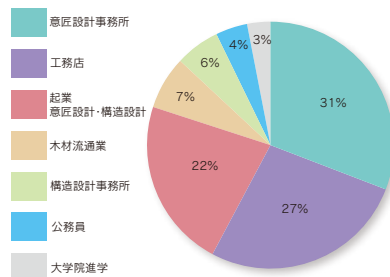
都会でニーズが増えている木工や木育の教室の指導者を目指し、プログラムの開発・企画力や運営能力、木工指導技術を磨きます。

取得を目指す主な資格

- 2級建築士(卒業後、すぐに受験可能)※所定科目を修了した場合
- 1級建築士(卒業後、実務経験4年で受験可能)※所定科目を修了した場合

卒業後の進路

卒業後は、「木材や林業に明るい」という特徴を持った建築士として活躍しています。1)地元産の木材利用を意識している、2)木構造に明るい、3)省エネルギーに強いなどの特徴を持つ設計事務所、工務店へ就職しています。さらには、自分の理念や趣味(例えば構造が得意)を活かしての起業や、事業の後継者(例えば家業の跡取り)として活躍する人もいます。地元産の木材の上手な使い手となることは、林業を支え、山村を振興します。



取得を目指す主な資格

木工や木育を実践するために必要な資格は、特にありません。森林文化アカデミーで木工を学んだ卒業生の中には、岐阜県から「ぎふ木育推進員」を委嘱され県内各地でさまざまな木育活動を行っている人たちがいます。

卒業後の進路

地域材を生かした新しい木工製品のプロデュースなど、卒業直後に木工房(竹編工等含む)を自ら起業した人の割合がもっとも高くなっています。また、家具工房や、障がいを持つ人が木工作業を行なう社会福祉法人などに就職する人も多います。木のおもちゃの開発や木工教室など木育の活動を行なうNPOなどに勤務したり、自ら起業する人も増えています。木工の知識と技術を生かして製材所や工務店に就職した人もいます。

